第 341 号
平成19年(2007年) 2月1日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
〒564-8680
大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-1121（代表）
http://www.kansai-u.ac.jp/

「地財」探求の面白さ

大西　正曹

このところ、行政は特許や商標などの知的財産を育成し、擁護することを声高らかに謳いあげ、知財こそが日本の将来を左右するとして推奨している。しかし、果たしてそれがいかほどの効果をあげるのか、充分に吟味する必要があるように思う。私は今、敢えて「知財」も大切だが「地財」の再評価を！　と呼びかけたい。それでは、「地財（ちざい）」とは何か。「地財」という視点は、ある特定の地域や産業・業界、さらには一私企業の中に眠っている技術やノウハウを見直し、社会的・経済的課題解決のための隠れた財産として掘り起こすことを意味している。広く一般的になっている考え方やモノの使い方ではなく、その地域独自、その業界独自、その企業独自のものの見方とは何か、そしてそれを多様性に満ちた空間に開放する視点とは何かを追究するものである。ローカルな視点、局所的な視点にこそ、興味深い点が存在する。しかし、この言葉は新しく登場したばかりで、まだ湯気がたっている。今やっと始まったテーマであり、これからその内容を深め、対象を探り、鍛え上げられるために、多くの人の本格的な研究・活用への取り組みを待っている。

かつて日本というこの小さな極東の島国におけるモノづくりの驚異的な進展は世界中の注目を浴び、「モノづくりニッポン」と呼ばれて賞賛された。世界の中での日本の産業の存在価値は、細部にまで心配りがなされた優れたモノづくりの能力の発揮によって端的に示されていたと言える。

社会学からの視点、特に私の研究分野である日本企業のモノづくりに即して言えば、日本における中小企業のあり方、中小企業におけるモノづくりのあり方について調べることは、日本経済全体の真の活性化について考えることに通じている。

現在の日本の中小企業はさまざまな課題を抱えている。特に、フリーターやニート等の若年労働者の問題や後継者不足という問題で経営者は将来についてネガティブな論理に陥っている。さらに、中国の脅威や東アジアの台頭によって日本の中小企業が沈没していくという現実に直面しながらも、自らの行動の基本となるモノづくりというものの捕らえ方に根本的な誤解を持ったまま今に至っている。

行政も経営者も皆、とにかくモノづくりをしなければいけない、より良いモノをつくらなければならないという義務感が強く、言わばモノづくりの呪縛にかられて、柔軟に対処することができていない。困難に直面した時に、解決のためのいろいろな道があるということが分からなくなっている。そうしたことに対する感度のいいアンテナがなくなっており、どのようにアンテナを磨いてやればいいかが分からないのである。

モノづくりにおける変革の要点は、「モノ」から「コト」へ移行するモノづくりの新たな視点、新たなプロセスを理解し、実践することにある。つくり上げる「モノ」そのものに執着せず、どういう「コト」ができるのかに焦点を合わせた発想こそ求められているのである。そうした視点で、自らの周辺、足元を見直してみれば、まだまだ沢山の見えない財産が埋もれており、手付かずの鉱脈がひっそりと眠っているはずだ。

「地財」の在り処・在り様は多様多彩で、その探り方にも工夫を要するが、自分の手でしか掘り起こせないものであることだけは、はっきりとしている。自らの手で掘り起こす、自分だけが持つノウハウはかけがえのない財産であるということに注意を払うべきであり、掘り起こすというそのこと自体が、「知」の活用を超えて遥かに大きな実りをもたらす作業なのである。

こうした「地財」探求の面白さは、衰退するモノの中に復活の芽を見出す興奮と、見慣れたモノが新しいコトに変化する驚きと、なによりも新鮮な発見の現場に立ち会う喜びにある。

（社会学部教授）

HEADLINE

2面　KUBIC2007開催
3面　カイロ大、北京外大と協定締結
4・5面　特集　素朴な疑問にお答えします。
6面　特集　ECOキャンパスへの取り組み
8面　特集　関大おすすめスポット

千里眼

往復二時間余り乗る通勤電車内では、退屈を紛らわすため読書に専心しているが、時に集中できないことがある。乗客のマナー違反が原因だ▼社団法人日本民営鉄道協会が電車内の迷惑行為をウェブ上で公表している。「座席の座り方」「携帯電話の使用」「ヘッドホンステレオの音漏れ」「車内で騒ぐ」「女性の化粧」「床に座る」「車内での飲食」などが上位にランキングされている。独断ながら、ほとんどが十代から二十代の若者によるふるまいだと思う▼かつてアメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトは、日本文化を「恥の文化」と評し、日本人は罪の意識よりも恥の意識で行動すると分析したが、この指摘はいまや若い世代には当たらないのかもしれない▼仲間うちでは「空気を読む」ことを重要な規範としているらしい現代の若者たち。その彼ら彼女らが、公衆の面前では傍若無人、厚顔無恥となることに大きなギャップを感じている▼人間関係において最も大切にすべきことは、「人に迷惑をかけない」ことに尽きるのではないだろうか。

（藤本　清高）

2007年度　関西大学　入学試験志願者数

＜一般入試Ａ・Ｓ・S2・Ｅ・Ｄ日程およびセンター利用入試(前期)＞

	一般入試（Ａ・Ｓ・S2・Ｅ・Ｄ日程）試験地別志願者数																						センター利用入試＜前期＞	合計
	大阪	札幌	仙台	東京	金沢	浜松	名古屋	津	滋賀	京都	和歌山	神戸	姫路	松江	岡山	広島	徳島	高松	松山	小倉	福岡	合計		
法	4,029	15	5	146	95	72	267	50	102	540	357	776	193	23	191	256	52	155	72	68	141	7,605 (6,153)	1,566 (1,107)	9,171 (7,260)
文	6,140	10	7	129	189	81	264	83	136	655	558	980	282	47	223	291	58	153	102	64	118	10,570 (9,247)	3,111 (3,045)	13,681 (12,292)
経済	4,442	6	4	85	218	46	200	35	156	624	448	796	202	23	221	242	42	191	110	68	113	8,272 (7,928)	2,171 (1,638)	10,443 (9,566)
商	5,298	9	5	91	147	43	201	28	200	712	387	1,064	232	12	137	243	40	183	66	70	109	9,277 (8,341)	1,817 (1,615)	11,094 (9,956)
社会	5,470	19	4	126	155	91	251	84	123	753	322	931	187	28	166	259	59	181	89	52	133	9,483 (7,896)	2,727 (2,016)	12,210 (9,912)
政策創造	2,875	0	3	57	38	23	100	23	63	328	221	541	102	4	61	72	19	41	33	23	41	4,668	1,133	5,801
総合情報	2,379	3	4	62	45	26	113	33	70	403	204	425	111	7	60	113	37	64	27	24	53	4,263 (4,572)	1,231 (1,033)	5,494 (5,605)
システム理工	3,185	2	2	45	153	52	410	63	75	399	203	647	246	34	197	231	27	90	88	46	78	6,273 (—)	1,719 (—)	7,992 (—)
環境都市工	1,737	1	0	62	95	32	302	21	44	272	142	398	124	20	120	137	14	70	44	20	58	3,713 (—)	1,106 (—)	4,819 (—)
化学生命工	1,631	0	1	30	78	30	178	30	38	267	143	279	115	24	95	102	18	53	37	34	60	3,243 (—)	1,183 (—)	4,426 (—)
合計	37,186	65	35	833	1,213	496	2,286	450	1,007	4,953	2,985	6,837	1,794	222	1,471	1,946	366	1,181	668	469	904	67,367 (53,951)	17,764 (13,626)	85,131 (67,577)

＊上記は、一般入試（Ａ・Ｓ・Ｓ２・Ｅ・Ｄ日程）、センター利用入試（前期）の志願者数です。一般入試（後期Ｂ日程）およびセンター利用入試（中期・後期）の志願者数は含まれていません。
＊（　　）内の数は昨年度の志願者数です。（　　）の合計欄には昨年度の工学部の志願者数（一般入試Ａ・Ｓ日程：9,814名、センター利用入試前期：3,172名）を含んでいます。
＊政策創造・システム理工・環境都市工・化学生命工学部は2007年４月に開設します。

政策創造学部開設記念シンポジウム
地球市民育成に強い関心

昨年十二月十七日に、千里山キャンパス100周年記念会館ホールにおいて「東アジアにおける対話と共同―その課題と可能性―」をテーマに、開設記念シンポジウムが盛況裏に開催された。六百人を超える聴衆の中には、多数の一般市民、本学学生・院生、学内教職員等の本学関係者をはじめ、高校教員や今春政策創造学部に一期生として入学することをめざしている現役高校生他も含まれ、熱気に包まれたシンポジウムとなった。

本シンポジウムでは、地球市民の育成をめざす新学部の精神を生かすべく、日米両国の国際関係・政策立案における第一人者を招き、多面的な議論が行われた。パネリストは、ジョンズ・ホプキンス大学教授で、本学客員教授に就任予定のフランシス・フクヤマ氏、国際問題アドバイザー（岡本アソシエイツ代表）の岡本行夫氏、政策創造学部教授就任予定者で、政府の「教育再生会議」メンバーでもある白石真澄氏の三氏で、パネルディスカッションに先立った二つの基調講演を基に、安武真隆コーディネーター（政策創造学部教授就任予定者）による論点整理を踏まえたうえで、活発な議論が繰り広げられた。

フクヤマ氏の基調講演では、「北東アジアの安全保障に向けた新しい多国間アプローチ」と題して、同氏の著書である『アメリカの終わり（America at the Crossroads）』の内容に即した英語（同時通訳付き）による講演があった。また、岡本氏の講演では、「日本と東アジアの新しい関係」をテーマとして、日中関係を焦点とする、二十一世紀日本外交の基本戦略が論じられた。そして日本（政府や市民一人ひとり）が「東アジアにおける対話と共同」の可能性を探るにあたっていかなる視座を必要とするのか、克服すべき障害とは何か、などについて、若い世代や一般市民を意識した、かつ、中長期的視座に立脚した提言が示された。

今回のシンポジウムにより、広く社会一般および本学政策創造学部に大いなる期待を寄せている関係者に、新学部の理念と目的の認識が深まることを期待する。

（政策創造学部設置準備事務室）

二つの部門でビジネスプランを募集中
KUBIC2007開催

商学部創設百周年記念事業として昨年実施した商学部主催の関西大学ビジネスプラン・コンペティションKUBIC（キュービック）「学生の力」が継続行事となり、来年度も開催されることになった。KUBIC2007のキャッチフレーズは「壁は自分の中にある。ひらめいたら、KUBIC」。協賛企業六社、後援団体五団体の温かい支援を受けて全国の高校生、大学生からビジネスプランを募集している。

KUBIC2007には二つの部門がある。自由応募部門は独自の発想でプランを応募する部門、テーマ部門は企業が提示したテーマについて応募する部門である。今年の協賛企業は江崎グリコ、NTTドコモ関西、カルビー、サントリー、フェリシモ、マンダムの六社で計四十四のテーマが提示されている。テーマ部門は通常審査と並行して企業による審査も行われ、優秀プランには各企業から企業賞が贈られる。

この二部門に応募された全プランについて、学校名、応募者名を伏せたダブル・ブラインド・レビュー（双方向目隠し）方式で第一次・第二次書類選考が行われ、優秀なプランに選ばれた応募者は六月三十日（土）に第二学舎四号館BIGホール100で開催される本選会でプレゼンテーションを披露する。優勝賞金は大学の部二十万円、高校の部十万円。応募締切は二月二十八日（水）必着。本学全学部からの応募を歓迎。詳細はKUBIC2007ウェブサイト（http://kubic-kandai.com/）を参照。

（商学部）

山田洋次客員教授　特別講義
互いの熱が会場で交差

映画監督で本学客員教授の山田洋次氏の特別講義が、昨年十二月四日に行われた。

山田洋次監督作品「武士の一分」公開直後の多忙な中、超満員のソシオAV大ホールで「撮影現場が大学だった」と題して、映像表現とは何か、映画制作とは何かについて熱く語った。ホールは立錐の余地もないほどの超満員となり、山田監督の静かな語り口ながらも情熱溢れる内容に、学生たちは熱心に耳を傾けた。

後半の質疑の時間にも、学生たちは熱心に質問をぶつけ、そして監督も静かに沈黙し考え、少し間を置いて答える。講義内容ばかりでなく、大監督のその真摯な態度に受講した学生は感動したようだ。

一時間半の講義があっという間に過ぎ、山田監督が、「私自身は、あと一時間延長してもいいんだよ」と語るほど会場全体が熱気に包まれた特別講義となった。

監督から学生への伝言。「たった一本だけ映画を見るとすれば、チャップリンの『ライムライト』を見よう。」

（社会学部長　黒田　勇）

フィールドワーク
盲導犬訓練センター訪問

昨年十二月十八日、学生センター主催のフィールドワークが実施された。この行事は本学の学生、教職員を対象とした課外教育プログラムで、二十回目を迎える。

参加者は、学生十七人、教職員十一人の合計二十八人であった。今回のフィールドワークでは、京都府亀岡市にある「財団法人関西盲導犬協会　盲導犬総合訓練センター」を見学した。現地では同センターのスタッフによる講演会、ビデオ上映が行われるとともに、盲導犬の訓練の様子も見学することができた。

（学生センター）

大学トピックス

●関西大学工学部がチュラロンコン大学石油・石油化学研究科と国際交流計画に関する基本協定および大学院学生交換に関する協定を締結

本学工学部とタイのチュラロンコン大学石油・石油化学研究科との間で、国際交流計画に関する基本協定および大学院学生交換に関する協定を締結する。チュラロンコン大学は、一九一七年に創立されたタイ最古の大学であり、タイの最高学府である。大学への入学は国家試験で決まり、卒業式は国王によって主催され、学生一人ひとりに証書が手渡される。近代的な実験室や設備が充実しており、特に中央図書館は蔵書数百万冊以上を誇っている。

●申込者を対象に総合図書館を一般開放

本学は平成十九年四月一日から平成二十年三月三十一日までの間（七月および十二月は利用不可、先着百人の申込者に対して総合図書館を一般開放する。申込資格は、吹田市在住かつ満二十三歳以上で本学総合図書館において学習、調査、研究を行う者とし、原則として他大学の学生ならびに教職員は除く。サービス内容は、図書の貸出冊数五冊以内、貸出期間は二週間以内というものであり、インターネット利用はできない。料金は登録料として六千円を徴収する。申込受付期間は、二月十七日（土）から三月十日（土）まで。

●第二十三回織田作之助賞受賞作発表

一月九日、本学が運営に参画する大阪ゆかりの文学賞「織田作之助賞」受賞作品の発表が行われた。同賞は、大阪生まれの作家で、小説のみならず評論活動でも活躍して日本文学に一時期を画した織田作之助を顕彰して創設されたもので、主催は大阪文学振興会、毎日新聞社、関西大学の三者。応募は、小説やエッセーなどの散文の文学作品か、文学、歴史、芸術にかかわる評論・評伝などで、関西（近畿二府四県）にかかわりがある単行本を対象とする大賞と、織田作之助が最初の小説を発表した二十四歳までの若手による短編小説を対象とする青春賞の二本立てで行われた。大賞に二作品、青春賞の佳作に二編がそれぞれ選ばれ、青春賞は該当なしとなった。

学事短信

◆法学部

昨年十二月七日に第四回「憲法関関戦」を実施した。主催は法学部憲法研究会。結果は本学が勝利し、連覇を成し遂げた。「憲法関関戦」とは、本学法学部憲法ゼミと関西学院大学法学部ゼミの有志で毎年繰り広げられる討論会のことで、隔年で本学と関西学院大学のキャンパスで行われている。

訃報

間登志夫（はざま・としお＝名誉教授・元法学部教授）

平成十八年十二月七日十五時四十六分に死去。七十七歳。昭和三十三年三月本学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。昭和三十二年四月本学法学部着任。昭和四十五年四月に教授。平成十二年三月定年退職。平成十二年四月名誉教授。専門は政党論・政治意識論。

原英次（はら・ひでつぐ＝名誉教授・元法学部教授）

平成十八年十二月十四日十三時十分に死去。八十歳。本学大学院法学研究科修士課程修了。昭和二十七年七月本学法学部着任。昭和三十九年四月に教授。法学部長、経済・政治研究所長を歴任。平成九年三月定年退職。平成九年四月名誉教授。専門は政治学史。

カイロ大、北京外大と協定締結

アフリカ初の協定校　カイロ大学
北京外国語大学　中国でNo.1の語学大学

このほどエジプトのカイロ大学と基本協定、学生交換協定および研究者協定を締結することに合意し、昨年十二月十日に河田悌一学長、カイト由利子国際交流センター所長、吹田浩文学部教授、小西靖洋大学本部長が同大学を訪問し、調印式を行った。カイロ大学は、本学にとって三十四番目の協定大学となり、アフリカの大学としては初めてとなる。

エジプト・ギザ市に位置するカイロ大学はナイル川を挟んで両岸に広がり、一九〇八年、宗教教育の最高学府であるアズハル学院に対する世俗教育の総合大学として設立された。当初から、自由な学風を特色として、アラブ諸国やイスラム教国ばかりではなく、世界各国との交流を進め、開明的で、国際的な大学である。カイロ大学の重要性は、エジプトがアフリカ・中東の拠点であることによる。同大学文学部日本語学科は三十年余の歴史を持ち、エジプトのみならずアラブ、中東における日本語および日本研究の拠点と位置づけられる。学部学生十五万五千人、教授約三千二百人、講師・実験助手等約二千四百人を擁している。

同大学との学生交換協定により、毎年二人枠で交換を行うことになるが、同大学での授業料は、本学に納付した学費をもって充当され、派遣留学生のための給付奨学金制度もある。

また、中国の北京外国語大学とも基本協定を締結し、本学にとって三十六番目の協定大学となった。中国国内の協定大学は、すでに協定を結んでいる東北大学、北京大学、復旦大学、遼寧大学、香港中文大学に続き六校目となる。

北京外国語大学は、一九四一年、中国で外国語を専門に扱う高等教育機関として最初に設立され、中国文部省直轄の主要な大学である。北京市の海淀区に位置し、近くには北京大学をはじめいくつもの大学が点在する文教地区にあり、キャンパスの面積は三十万平方メートルである。日本語、英語をはじめとする八つの外国語学部では、三十三種類にわたる世界の言語を教えており、学習できる外国語の多様さは中国でナンバーワンの語学大学として、教授約五百五十人、学生約六千九百人、うち、留学生約九百人を擁している。同大学とは、引き続き学生交換協定の締結に向けて交渉を進めていく予定である。すでに三年前から、サイバーキャンパス整備事業の一環として、ビデオ会議システムを使って、北京外国語大学の教授による本学学生に対する遠隔授業が以文館にて行われており、今回の協定締結をきっかけに両大学の交流がさらに活発になることが期待される。

（国際交流センター）

カイロ大学上と調印式下

ひらめき☆ときめきサイエンス

中学・高校生が異文化体験

科学研究費補助金の研究成果を中学・高校生に、わかりやすく紹介するプログラムとして、昨年十一月二十五日、高槻キャンパスにおいて、「話し合いと協力で世界が結ばれる～異なる文化を理解しよう」（担当者・久保田賢一総合情報学部教授）が実施され、近畿各府県から、十九人の中学・高校生、三人の教員が参加した。

午前中は、参加者を三つの文化グループに分けて、「パファパファ」というワークショップで異文化を擬似体験した。午後は、中国・フィリピンの大学生とのテレビ会議交流、アラブのお茶やお菓子の試食、民族衣装の試着、グループでの意見交換などを通じて、異文化を体験し、自分たちが置かれている環境や生活をグローバルな視点で見つめなおす機会となった。

なお、本年度は、このプログラムの他に、七月三十日に「環境にやさしい資源リサイクルの最前線」（芝田隼次工学部教授）、八月四日には「立体感によって視覚の仕組みを知ろう」（林武文総合情報学部教授）が実施されている。

（研究支援課）

スタッフの説明に耳を傾ける中学・高校生たち

関大笑い講シンポジウム

大好評!!300人参加

この春学期、新たにリレー講義方式でプロデュースした「笑いの総合科学をめざして」（テーマスタディ）の講師陣を招き、十二月三日、公開シンポジウム「ヒトはなぜ笑うのか」（協賛・吉本興業）を開催した。井上宏名誉教授、森下伸也金城学院大学教授、コント作家の藤田曜氏、アトピーを笑いで治す木俣肇医師、筑波大大学院で脳科学を専攻する野澤孝司氏、関屋俊彦文学部教授、雨宮俊彦社会学部教授を迎えて、七時間におよぶ熱いシンポジウムとなった。ドイツから社会学研究科に留学中のティル・ワインガートナーさんが「いとし・こいし」の漫才を分析、『がばいばあちゃん』の島田洋七氏が飛び入りで講演（公演？）、大好評を博した。最後に、参加者一同で大笑い、千里山の岩戸開き」の儀を執り行った。日曜日にもかかわらず、この「関大笑い講シンポジウム」には学生約百五十人、一般約百五十人の参加があった。

（社会学部教授　木村洋二）

博物館実習展開く

学芸員めざす学生が力作披露

平成十八年度博物館実習展を昨年十一月二十七日から十二月一日まで、関西大学博物館第二展示室で開催した。

今年度は、本学図書館が所蔵する貴重な「ちりめん本」などを展示した「絵入る喜び―」、吹田にあった人形芝居小屋のあゆみをたどった「すいた・出口座のキヲク」、明治期の引き札（ちらし広告）など大阪の広告を集めた「おおさか広告物語」、牛乳キャップ約七百種類を集め郷愁をそそる「牛乳キャップ展―キャップの小さな気配り―」、異なる二つの環境で生息する貝類を展示した自然科学系の「自然の造形美―琵琶湖・淀川水系と深海の貝類―」など五つの企画であった。

博物館学課程のうち「博物館実習」を履修している学生が、資料の借用から返却まで、展示を含むすべてを自らで企画、運営した。

５種の企画でにぎわう関西大学博物館第２展示室

「授業評価アンケート」をテーマに12回目のFDフォーラム開く

昨年十二月二十日、千里山キャンパス第二学舎四号館BIGホール100および高槻キャンパス大学院棟TD106教室（同時中継）において、「みんなのFD―授業評価アンケートの現状と展望―」と題し、第十二回FDフォーラムを開催した。出席者は教育職員、事務職員、学生あわせて約五十人であった。

第一部では、池内裕美社会学部助教授から、本学のFD活動のひとつである「授業評価アンケート」の現状報告を、授業評価アンケートの変遷、アンケート回答姿勢など学生の視点や意見などを交えて報告された。

また、池内ゼミの学生二人から、FD活動の認知度、授業評価アンケートに対する学生意識および学生にとって魅力あるFD活動の模索など、本フォーラムの開催に向けて学生数人で実施したグループインタビューの結果について報告があった。

第二部では、第一部の内容を受け、「授業評価アンケートの取組の将来展望―アンケートからFD活動へ―」と題し、三浦真琴静岡大学大学教育センター教授を迎え、先進的なFD活動についての講演があった。

本フォーラムを通じ、本学のFD活動のひとつである授業評価アンケートの実施主旨と学生の考え方や思いとの間にギャップあることが明らかとなり、今後の授業評価アンケートの方向性が示される貴重な機会であった。

（全学共通教育推進機構）

教員へ熱い思い

教員採用試験合格者 先輩たちと未来を語る

平成十八年度教職課程・教員養成フォーラムが、昨年十二月九日、本学出身の現職教員（公立小・中学校）二人、大阪府教育委員会の角野、樋口両指導主事、採用試験合格者の代表六人を迎えて、「私の目指す教師像」というテーマのもと開催された。

教員資質・力量の向上が厳しく求められる状況にあって、学校現場が抱えるさまざまなディレンマの中で、全身をかけて格闘する教師の実践や、「なぜ教師か」という反問と省察をくぐりながら成長していく二人の若い教師の熱意と喜びが生々しく語られ、参加者全員に深い感銘を与えた。

また、合格した学生達の初心、抱負が、自らの言葉で、ユーモアをまじえながら紹介された。指導主事の両氏は、子どもの声を「傾聴」することの大切さを指摘するとともに、関西大学という総合大学のもつ教育力に言及し、「なぜ育てた合格者たちの輝きに敬意を表した。当日、秀麗会（本学出身教師の会）会長の早苗良雄氏も参加し、後輩たちを励ました。

教師の成長、その専門性の開発という課題が、文字どおり協同の営みとして追及されたフォーラムとなった。

（全学共通教育推進機構　免許・資格部門委員長　玉田　勝郎）

読書教養講座

三島由紀夫の魅力を紹介

編集者の藤田氏が講演

本学と活字文化推進会議の共同授業「読書教養講座」の第二回公開授業が、昨年十二月一日に千里山キャンパス第一学舎二号館B201教室で開講された。当日は、編集者の藤田三男氏を講師に迎え、「死後成長する作家、三島由紀夫の〝仮面〟」と題した講演が行われた。原稿やゲラの受け渡しで三島邸に足しげく通った際のエピソードや、死後三十六年を経てもなお多くの読者を持つ三島作品の魅力が紹介され、同授業の受講生をはじめ学内外の約二百人が熱心に聞き入った。

素朴な疑問にお答えします。

Q「どうして人はおしゃれをするの？」

A 髪の毛、眉毛をきれいに整える。その日の気分に合わせて服の色を変えてみる…。わたしたちは、自分の身体や身につける服にたえず気をつかって生活しています。程度の差はあれ、みな「おしゃれ」をしているのです。同時にわたしたちは、周りの人の姿・存在も気にしています。このことは、ちょうど鏡に映しだすように、自分と他者を重ね合わせて見比べることに似ているでしょうか。「おしゃれをする」ことで、わたしたちはただ単に「着飾っている」のではなく、他者の視線を意識して、自分というものを確認しているのです。

（文学部助教授　三村　尚彦）

Q「最近どうして大ヒット曲が生まれないの？」

A 1990年代の大ヒット曲続出現象は、CDの普及、カラオケボックスの普及、タイアップのシステムなどがあいまって成し遂げられたものです。団塊ジュニア世代がそれを支えていました。他方、この間、大型レコード店の全国的な出店、新しいタイプのＦＭ放送の展開により、自分の耳で好きな音楽を選ぶ聞き手が育ち、テレビやメジャーのレコード会社に頼らないインディーズからもヒット曲が出るようになりました。CDをよく買う若者の人口が減った上、ネット配信の利用が増え、CDがよく売れるという意味での大ヒット曲は出にくくなっているのです。

（社会学部教授　小川　博司）

Q「携帯電話はどこまで進化するの？」

A「おサイフケータイ」に代表されるように、携帯電話は、生活のさまざまな場面で不可欠な道具にますますなっていくでしょうが、同時に、今のようなデジカメやメールなどの機能が進化した背景には若者文化の影響がきわめて大きいという事実があります。「パソコンの父」と言われるアラン・ケイはネットやコンピュータの未来はどうなるか聞かれると、きまって「あなたの考えるとおりになる」と答えますが、携帯電話も同じように「あなたたち若者の考える通りになる」もの。メディアの将来像は、私たちがどういう未来を思い描くかにかかっているのです。

（総合情報学部助教授　岡田　朋之）

Q「日本史上、最も注目すべき政治家はだれ？」

A 1224年に北条氏三代目執権に就任した北条泰時（1183−1242）が、日本型政治家の最初かもしれません。連署制度に伯父時房を誘い、評定衆を設け、独裁から合議へと政治を一新、鎌倉政権の下支えに徹し、その公的性格を確立した人物です。1232年に泰時が公布した「御成敗式目」は、律令のような継受法と違い、本邦初の自前の法典。農民生活の実際にまで配慮して、公平な紛争処理のための新たな基準作りに努める一方、皇室や公家との友好関係の維持にも心を砕きました。現代日本の統治のありようを考えるとき、ここに智恵の源泉を見出せるはずです。

（法学部教授　山野　博史）

Q「他人のメールを無断で読むと罪になるの？」

A 読み方によります。メールサーバ上にある他人宛のメールを第三者が無断で読むと、電気通信事業法または有線電気通信法違反で処罰される可能性があります。しかし、他人が自身のPCや通信端末にダウンロードし、保存したメールを無断で読んでも、それだけでは犯罪とはなりません。ただし、メールがサーバ上にある場合もPCや端末に保存されている場合も、それを読むために、ネットワーク経由で他人のIDやパスワードを盗用し、あるいはID、パスワードによるアクセス制限を破ってサーバや個人の端末にログインすると、不正アクセス禁止法違反の罪が成立し得ます。

（法学部教授　葛原　力三）

Q「イギリスはどうしてユーロを使わないの？」

A 欧州の共通通貨ユーロは、2007年1月からスロベニアが利用を始め、13カ国で使われています。しかし、みなさんは少し驚かれるかもしれませんが、イギリスはユーロを使っていません。その理由として、イギリスは独自に貨幣量を決めて自国に都合のよい経済をめざしたいこと、イギリスの通貨ポンドはかつて世界的な通貨であり、それを廃止することにイギリス国民は抵抗感があること、さらにユーロを利用しないことでイギリスはかえってユーロ圏諸国向けの貿易を拡大できたこと、などが挙げられます。イギリスの現政権はユーロ利用の是非を決める住民投票の予定すらも決めていませんので、イギリスのユーロ利用はまだ先のようです。

（商学部教授　髙屋　定美）

Q「冷凍食品は何年くらい保存できるの？」

A 冷凍食品はいつまでも品質良く保存できていると考えていませんか？　実際には、そうではありません。冷凍食品の賞味期限（または品質保持期限）は、保存温度(-18℃)で、一定期間（2カ月または3カ月毎）に品質評価（官能試験、衛生試験、理化学試験＜酸化など＞）によって設定されています。例えば、冷凍うどんは10〜12カ月、冷凍米飯類は12〜15カ月、コロッケ類は8〜12カ月の賞味期限です。家庭の冷凍庫（-18℃以下）であまり多く入れすぎると温度が上昇しますので、購入時の品質が保たれるのは2〜3カ月間と考えてよいでしょう。

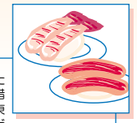
（工学部助教授　河原　秀久）

Q「最近、都心に高層ビルやマンションがたくさん建設されているのはどうして？」

A 2002年に都市再生特別措置法という法律ができて、ビルの高さに関する規制が緩められたからです。高層建築を核に、街を活性化させようというのが狙いでした。しかし、街づくりの先進国では、都市を高層ビルで飾るのは時代遅れだという考えがひろがっています。いっきょに巨大な施設をつくるのではなく、その街で暮らす人びとにとって使いやすい街を、ゆっくりと形成していく知恵が求められています。

（社会学部教授　永井　良和）

Q「回転寿司店の寿司はどうしてあんなに安いの？」



A 腕の立つ熟練の職人さんが、カウンターやお皿にも凝ったぜいたくなお店で、高級なお米と高級な国産の魚介類を惜しげもなく使うと当然値段は高くなるよね。それは、例えば、東京は銀座の高級寿司屋のお話。お酒を飲んでちょこっとつまむだけでも、目玉が飛び出るぐらいのお勘定になります。回転寿司店はこの逆のことをやってるわけです。熟達した職人さんではなく、場合によっては機械が握る酢飯に、安い輸入ものの魚介類を乗せてベルトコンベアの上のプラスチックの皿に置くと、ほら回転寿司になるでしょ。

（商学部助教授　三谷　真）

Q「保険金の不払いはどうして起きたの？」

A いざというときのための保険金が支払われなかったのは、保険という商品の分かりにくさが大きな原因です。さらに、本来ならば保険金を支払わなければならない場合でも、契約時に法令違反があるなどの理由をつけて保険会社は意図的に支払いを拒否しました。また、商品開発競争が進み、社内のシステム対応が十分に追いついていなかったことも保険金不払いの原因として考えられます。この問題の背景には保険会社の不当な利益追求の姿勢があります。保険会社が顧客の立場に立っていたら、このような問題は発生していなかったでしょう。

（商学部助教授　徳常　泰之）

Q「地方公共団体が倒産するってどういうこと？」

A 倒産（破産）は、借金の返済が不可能になることです。普通の企業の場合は、倒産によって生産活動が停止し、従業員もいなくなります。地方公共団体も、企業の売上げに当たる税収で借金を返せなくなる可能性はあります。しかし、地方公共団体の提供する福祉や消防といった行政サービスは倒産したからといって翌日からなくしてしまうわけにはいきません。そこで、国、地方公共団体で働く人、住民、そして貸し手がそれぞれに痛みを分け合って、行政サービスを維持していく必要があるのです。

（経済学部教授　林　宏昭）

Q「世界に言語はどれくらいあるの？」

A 世界の言語情報を集めたEthnologueによると、現在確認できている言語数は6912だそうです。以前から、およそ7000前後だろうと言われていましたから、妥当な数字でしょう。ただ、どこまでを単一言語の「方言」とみなすか、研究者により意見の分かれるところで、正確な数は特定しがたいというのが実情なのです。なお、世界中には絶滅の危機に瀕した(endangered)言語がたくさんあり、調査の過程で話し手がいなくなり絶滅した(extinct)言語もあります。言語も生き物と同じだと言えそうです。

（外国語教育研究機構教授　山本　英一）

Q「セレブな女性はどうしてブランド品を買うの？」

A ある映画で、ヒロインの恋人が、ヒロインのもってきたブランドのバックに呆れるシーンがあります。「カバンなんて物が入ればいいだけなのに！」。しかし、経済学者で社会学者のT.B.ヴェブレンは、セレブな人びとは「消費財（カバン）を具体的な有用性（物が入る）のために使っているのではない。消費財は、それを使う人の社会的地位や経済力を表す『記号』である」といいます。だとすれば、セレブな女性は自分の地位を誇示するためにブランド品を買うといえます。ただ、セレブではなく一般の女性もブランドを買うことの方が、現代の特徴といえるかもしれません。

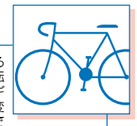
（総合情報学部助教授　谷本　奈穂）

Q「日本の食料自給率はどの程度？」

A 食料自給率には、「品目別自給率」「穀物自給率」「総合食料自給率」などがあります。よく使われているのは、「供給熱量ベースの総合食料自給率」で、（国産供給熱量）÷（国内総供給熱量）で計算されます（ただし、畜産物については、飼料自給率を考慮して計算されます）。これによれば、日本の自給率は1998年度から2004年度まで40％であり、先進諸国の中では最低です。また、2004年度の穀物自給率は28％、主食用穀物自給率は60％、生産額ベースの総合食料自給率は70％となっていて、日本の食料自給率は大変低いといえます。

（経済学部教授　樫原　正澄）

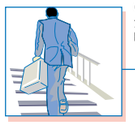
Q「自転車で発電することはできない？」



A 人間が自転車を漕ぐエネルギーを電気エネルギーに変えることは、実は割と カンタンです。身近な例としては、自転車の前輪についてるダイナモです。これはタイヤの回転エネルギー(の一部)をダイナモという小さな発電機で電気エネルギーに変え、照明として使ってます。ただしこれでは4W程度しか発電できません。ちゃんとした高性能の発電機を使った場合、瞬間で900W、連続して漕ぐ場合でも平均200W程度の発電ができることがわかってます。この方法は本学で特許申請中です。人間の持ってるパワーって、結構あるんですよね。

（工学部助教授　安田　陽）

Q「日本人は本当に働きすぎなの？」



A ずばり言えば先進国でダントツの働きすぎです。労働基準法では、1週40時間、1日８時間を超えて労働させてはならないと定められています。しかし、政府統計によれば、働き盛りの男性は平均で1週50時間、1日10時間以上働いています。週35時間以上働く男性の４人に１人は、週60時間以上働き、月80時間以上の残業をしています。厚生労働省は残業が月平均80時間を超えると、過労死を発症する恐れが大きいとしています。ということは、多くの人が「死ぬほど」働いているわけです。働く人の健康のために、企業や労働組合と政府が一体となって時短を進めることが望まれます。

（経済学部教授　森岡　孝二）

Q「文学賞ってどうしてあんなにたくさんあるの？」

A 文学と一口に言っても、小説、随筆、評論、童話、戯曲、詩、短歌、俳句、川柳などに分かれています。また、小説でも、純文学、大衆文学、歴史小説、推理小説、ノンフィクションなどさまざまなジャンルがあります。そのそれぞれに賞が設けられているので、必然的に多くなるわけです。その他、著名な故人作家名を冠した文学賞、雑誌社が独自に行っている賞、地域の人びとの文学的関心を高めるために地域の名前を冠した賞などもあります。時代の変遷に伴い、年々文学賞は増加しているのです。

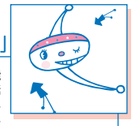
（文学部助教授　増田　周子）

Q「裁判はテレビやラジオで放送できないの？」

A 実は、憲法という国の基本法が、裁判の原則的公開を定め、国民の傍聴の自由を認めています。しかしこれは、司法権の公正な発動とそれへの国民の信頼を確保するための制度です。被告人が無罪とされ得ることを考えれば、その名誉やプライヴァシーを保護すること等も当然に必要ですので、一定の報道制限が課されているのです。もっとも、国民や住民が国や公共団体を相手取る訴訟に関しては、裁判の公正が害されない限り、広く国民の知る権利が満たされるよう、開廷場面だけでなく口頭弁論や判決の場面についても、中継報道が認められるべきであると、私は考えています。

（法学部教授　吉田　栄司）

Q「鉄腕アトムのようなロボットは実現する？」



A 空を飛び、マシンガンを撃つなどの機能は無いけれど、人間と協働して社会で活躍するロボットは実現できると思います。しかし、感情はもとより、物事を考えたり新しいものを創造するような機能の実現は不可能だと思います。電子辞書などのようなデータベース機能を備えた「物知りなロボット」はすぐ実現できそうですが、データベースに無い新しい発想を生み出す機能は実現できないと思います。人間が機械と違うところは、新しい物事を生み出す機能、すなわち、「知能」を持っていることなのです。この能力を大切に使って、人間らしく生きたいものです。

（工学部助教授　倉田　純一）

Q「日本の格差は広がっているの？」

A 所得などの格差の測定結果は、高齢化など、社会状況の変化による影響を強くうけます。これらの影響を考えにいれたうえで検討すると、この10年間に、所得について格差が大きく拡大したとはいえません。とはいえ、状況はかならずしも楽観を許しません。社会調査の結果は、日本全体に「格差感」が拡大していることを示しています。また、消費の格差はすでに広がりつつあり、これは、将来の所得の格差、あるいはもっと一般的に人々の「希望の格差」を反映しているのではないかといった簡単には見過ごしにできない議論があります。

（社会学部教授　与謝野有紀）

Q「インターネットで選挙をすることはできないの？」

A 技術的には可能です。しかし、議員を選ぶ選挙などで、このような方式を本格的に導入している国は、今のところありません。票数の不正な操作などに対抗するためのセキュリティの点で、問題があるためです。ところで、自宅のコンピュータなどからインターネットを使って投票ができれば、これまで選挙に行かなかった人たちも投票するようになる可能性があります。このことは、選挙の結果や政治のあり方にどのような影響をあたえるでしょうか。これも重要な問題ですので、どうか考えてみてください。

（総合情報学部教授　岡本　哲和　＜政策創造学部教授就任予定＞）

Q「二世議員が多いのはなぜ？」

A 毎回の衆議院新人当選者に占める二世議員の割合は多いときで30％近くになります。その大きな要因のひとつは、選挙活動を支えるのが、しばしば、候補者個人の自前の組織、いわゆる「後援会」だという事情にあります。組織づくりには莫大な労力と資金が必要です。日本では、普通の会社員が選挙に出ようとすれば、兼職や休職は難しく、たいてい退職しなければなりません。落選すれば、再就職も大変だし、借金まみれの生活困窮者になるかもしれません。普通の人にとって、選挙という市場への参入障壁は高く、親から組織を引き継ぐ二世議員が多くなるのです。

（法学部教授　森本　哲郎）

Q「全世界の人口はどれくらいまで増えるの？」

A 65億の世界人口が年率1.1％で増加しつづけると64年後には130億に達します。そこには、増加率(％)×倍増期間(年)≒70という関係があります。現在、先進工業地域では年率0.2％、開発途上地域では年率1.3％で人口が増加していますが、世界人口の変化は各国の出生率と死亡率の変化で決まりますから、国連では過去の人口データにもとづいて将来の人口を推計しています。それによると、「開発途上地域において女性が生涯に出生する平均子ども数が長期的には1.85人になる」という仮定のもとで、世界人口は2075年頃に92億となり、最大に達します。

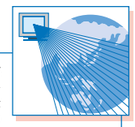
（経済学部教授　松下敬一郎）

Q「日本人はどうして英語が苦手なの？」

A 日本人は本当に英語が苦手なのでしょうか？　表題の問いかけ自体、ははだ疑問です。恐らく苦手なのではなく、使う機会がないだけのことだと思います。人は必要に駆られると何とかするものですが、幸せなことに、日本では英語を使わなくても何とも できてしまいます。このあたりが、英語がうまくならない理由なのでしょう。英語がうまくなりたいあなた！　英語を使う機会や理由を見つけ出してください。そして、自分を英語の学習に追い込んでください。そうすれば、「英語は苦手って誰が言っていたの？」という状態にさっとなりますから。

（外国語教育研究機構教授　竹内　理）

Q「メールはどうして相手に届くの？」



A メールはコンピュータネットワーク上に実現された郵便システムのようなものですので、メール送信の流れも実際の郵便システムと良く似ています。まず送信者は相手メールアドレス（氏名と住所）を指定してメール本体を送信側メールサーバ（差出人近くの郵便局）に送信します。送信側メールサーバは宛先アドレスのドメイン部（住所）から受信側メールサーバ（受取人近くの郵便局）を検索し、メールを送信します。受信側メールサーバはそのメールアドレスに書まれているユーザー部（氏名）を調べ、該当ユーザーのメールボックス（郵便受け）にメールを蓄えます。そして相手はメールボックスからそれらを取り出すことでメールを受け取ることができるのです。

（工学部助教授　梶川　嘉延）

Q「一夜漬けで記憶したことはなぜすぐに忘れてしまうの？」

A 記憶の理論では、情報はまず短期記憶に保存されますが、短期記憶は、数十秒間ぐらいまた７±２個程度のことしか覚えられない記憶です。もっと長い間多くのことを覚えておくには、短期記憶の情報を反復し、長期記憶にしっかり定着させることが必要です。長期記憶は、何十年もの間、膨大な情報を保持しておく記憶です。また、睡眠中には、覚えた情報を整理整頓し定着させる作業が脳の中で行われます。つまり、覚えた後に寝ないでいるより、寝た方がよく思い出せるのです。反復しないで睡眠をとらない徹夜の一夜漬けの場合、長期記憶への情報の定着ができないので、すぐに忘れてしまうことになります。

（社会学部教授　関口理久子）

Q「ウエイトトレーニングをすると体重が増えるの？」

A 答えは「yes」とも「no」とも言えます。ウエイトトレーニングは、人間の適応能力を利用して、筋力や筋量を増やすことを目的とするものです。筋肉に対して、普段の生活よりも強い負荷を与えることによって、筋肥大という身体の適応反応を引き出そうとするわけです。しかし、そのためには、規則正しいトレーニングに加えて、十分な栄養の摂取と規則正しい休息（睡眠）が不可欠です。きちんとした生活習慣を身につけなければ、トレーニングをしていても疲れるばかりで体重が増えないことだってあり得るのです。

（文学部助教授　安田　忠典）

Q「未発掘の壁画古墳は日本にまだあるの？」

A 昭和47（1972）年に故・網干善教先生が率いられ、関西大学考古学研究室の学生が多数参加した調査団が高松塚古墳を発掘し、極彩色で星辰図(せいしんず)や四(し)神図(しんず)、男女群像図などが描かれた壁画古墳がはじめて確認されました。この発掘調査は戦後最大の考古学的成果と評価され注目を浴びました。その後、キトラ古墳にも星辰図や四神図などが描かれていることが判明しました。現在、飛鳥地域に壁画古墳は２基ありますが、他にも共通する立地や外観を示す終末期古墳が複数あります。極彩色の壁画が描かれた可能性がある古墳の候補として、将来的に目が離せません。

（文学部教授　米田　文孝）

Q「コンビニエンスストアはなぜあんなにたくさんの品揃えができるの？」

A コンビニエンスストアには常時約3000品目の品揃えがされています。それは、買い置き習慣のない学生、単身の社会人のために、すぐになんでも買いそろえられるよう品揃えの豊富さを売りとしているからです。しかしながら当初多くのコンビニエンスストアは店舗が狭いにもかからず、たくさんの製品を棚に陳列し、さらには予備の在庫も持たなければいけないというのが課題でした。その課題を、POSレジで瞬時に売れ筋を把握することにより商品数を絞り、さらには一日に何度も少量の商品を店舗に届けることで解決しています。

（商学部助教授　岸谷　和広）

Q「野球選手の年俸はどうしてあんなに高いの？」

A プロ野球選手の年棒はこの３年間のデータの分析から次のような基準で判断されているとみられます。野手の年棒は一歳年をとると963万円、1本塁打で623万円アップします。投手は完投で1590万円、1勝で951万円です。セ・パ両リーグを比較すると、年棒のアップに大きな影響を与える要因は、テレビ中継や観客の多いセ・リーグでは野手は年齢・打点・四死球の順、投手はプロ歴・勝ち数・セーブ数と年功的要素が強く効いています。他方、収入の厳しいパ・リーグでは野手は本塁打数と四死球、投手は勝ち数と完投数という成果的要素が強く出ています。

（総合情報学部教授　山名　年浩）

関西大学のECOキャンパスへの取り組み

地球環境負荷の低減に貢献

はじめに

近年、「地球温暖化」「ヒートアイランド」といった言葉を耳にする機会が増えている。本学では、次世代を担うみなさんが環境問題を身近に感じることができ、地球環境負荷の低減に貢献できるキャンパス（＝ＥＣＯキャンパス）づくりに取り組むことは、社会的な責務であると考えている。昨年２月に竣工した総合学生会館 メディアパーク 凜風館をはじめとして、さまざまな取り組みを行っているが、ここではいくつかのキーワードをもとに、その一部を紹介する。

ヒートアイランド現象緩和への取り組み

本学は千里山キャンパスを、高低差のある敷地に数多くの樹木が存在する「千里山　丘の森キャンパス」と位置づけ、キャンパスの活性化・アメニティの向上に取り組んでいる。この構想により造られた、豊かな緑が建物群をやさしく包み込む自然発生的な景観は、他大学に類を見ない本学固有のキャンパスシーンとなっている。施設面においてもキャンパスの緑と建物とが一体化するように整備している。

総合学生会館 メディアパーク 凜風館では、大規模な屋上緑化を行い、屋外の舗装も雨水が浸透するように透水性アスファルトを採用した。また、冷暖房負荷を低減するため、断熱性・遮熱性に優れたLow-E複層ガラスを採用し、さらにガラス面に紫外線・赤外線反射吸収コーティング剤を塗布するなど、ヒートアイランド現象緩和に、多方面から取り組んでいる。

ガスコージェネレーションシステムの導入

ガスコージェネレーションシステムは、ガスによって発電を行い、その際に生じる排熱を冷暖房や給湯に用いるもので、エネルギー効率の非常に高いシステムである。尚文館に1200㌔㍗、総合学生会館 メディアパーク 凜風館に1630㌔㍗のガスコージェネレーションシステムを導入している。千里山キャンパス全体の電力の約20%をこのシステムでまかなっており、学校の施設としては国内でも最大級である。尚文館は、平成13年度環境・省エネルギー建築賞において審査委員会奨励賞を受賞するなど、社会的にも高い評価を受けている。

総合学生会館 メディアパーク 凜風館

ガスコージェネレーションシステム（凜風館１階）

氷蓄熱システムの導入

製氷用の冷凍機（第３学舎屋上）

氷蓄熱システムは、夜間の余剰電力を用いて氷をつくり、昼間にその氷を溶かして冷房に用いるシステムである。本学では、100周年記念会館に4560㍍㌘、第３学舎に１万2830㍍㌘の氷蓄熱システムを導入している。電力使用量の平準化を図ることができるため、電力会社も夜間に蓄熱するための電気料金を安く設定するなど積極的に普及を図っている。

※㌘は仕事やエネルギーの単位

自然エネルギーの有効利用

風力発電設備（凜風館屋上）

本学の各教室は、新旧を問わず自然採光・自然通風を十分に確保した設計となっている。また、新たな取り組みとして、総合学生会館 メディアパーク 凜風館に太陽光発電設備と風力発電設備、第１学舎５号館（３月竣工予定）に太陽光発電設備を導入している。太陽光発電設備は、「太陽光発電新技術等フィールドテスト事業」として、新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）と共同研究を行っているものである。風力発電設備は、本学の工学部によって設計されたシステムであり、いずれも産学官連携の成果の一例である。

井水・雨水の利用

千里山キャンパス内で消費される水の約70%は、千里山キャンパス東端に設置された深さ200㍍の井戸から汲み上げ、浄化処理された井水を利用している。また、総合学生会館 メディアパーク 凜風館、誠之館８号館（養心館）では、雨水を植栽の散水に利用して、水資源の有効活用を積極的に行っている。

センサー機能付照明器具の導入

地球温暖化防止および限りある資源の節減を図るために本学は、エネルギー使用量を年１%ずつ減らしていくことを目標に省エネ活動を行っている。具体的には、照明器具を高効率型に更新したり、人を感知して自動的に点灯・消灯する照明センサーや昼光が入るところは減光、夜になれば明るさを増して室内の照度を均一に確保するような明るさセンサーを設置するなどの取り組みを積極的に進めている。

廃棄物処理

食品リサイクル法により、廃棄物の削減・再資源化が義務付けられており、本学でもごみの分別収集に積極的に取り組んでいる。総合学生会館 メディアパーク 凜風館の２階には、１日最大6000食を提供する食堂があり、そこから発生する生ごみを、加熱乾燥することで食物残さを20%に減量して肥料等にリサイクルできるシステムを導入している。

生ごみ以外の千里山キャンパスから発生するごみの量は、年間に４㌧トラック約33台分（一般家庭の年間415軒分）にもなり、みなさんもゴミの減量と分別収集に是非協力してもらいたい。

関西大学アイスアリーナの製氷システム

昨年７月、高槻キャンパスに関西大学アイスアリーナが竣工した。全国からトップスケーターを招いて盛大に開催されたオープニングセレモニーは、テレビ中継なども行われ、記憶しているみなさんも多いだろう。スケートリンクの製氷には大量のエネルギーを必要とするが、この施設は世界で初めて、ガス小型熱源集中設置・運転台数制御方式（GHP【ICE RINK】システム）の製氷システムを導入している。これは、従来のシステムに比べ、年間の製氷エネルギーが約10%節減できるだけでなく、CO_2も27%削減できる地球環境に配慮した画期的なシステムである。

※ICE RINK＝Ice Control Eco-system Reducing Investment by Non-step-program at Kansai-university

関西大学アイスアリーナ

おわりに

千里山キャンパスの中央部に位置し、「ＥＣＯキャンパス」の象徴である総合学生会館 メディアパーク 凜風館には、正面入口にガスコージェネレーションシステムや太陽光・風力発電設備の発電量をリアルタイムで表示する「ＥＣＯディスプレイ」を、さらに建物内各所に環境配慮技術を説明する案内パネルを設置している。みなさんが、本学で学ぶなかで、これらの取り組みに少しでも関心を持ってくれることを、強く期待している。　（施設課）

「COUNTZERO～戦争。遠ざかる記憶、忍び寄る足音～」

藤岡ゼミ　戦争をゼロから考え直す

展示物でアピール

私たち、藤岡伸一郎社会学部教授のゼミ生が主体となって「戦争」をテーマにしたイベントを開催することを決めたのが約半年前。六十一年前の出来事が風化している現状や、近年の日本を取り巻く情勢の変化を憂慮してのテーマ設定だった。タイトルは「COUNTZERO～戦争。遠ざかる記憶、忍び寄る足音～」に決まった。

聞き取り調査

空襲、特攻、無残な戦場　亡き友・夫への哀感も

ゼミ生二十四人が映像、雑誌、展示の三班に分かれてそれぞれ準備を進めた。実行委員長を任されたということもあり、私の胸は「このイベントを何としても成功させたい」という熱意にあふれていた。しかしそこに、甘えが潜んでいたことにまったく気づきもしなかった。

初めて取材として戦争経験者の話を聞きに行った大阪府茨木市内の老人ホーム。空襲の被害に遭い死の恐怖に直面した人、戦地に赴いていた夫を亡くした人、特攻で命を散らした友を見送った人。そのどれもが哀しい。「本当は話したくはない」そう話す人もいた。彼ら彼女らにとって戦争体験を語ることとは自らの心に深く刻まれた傷痕を他人に見せることに等しいのだった。

私は「戦争をテーマにしたイベントをするのだから誰もが協力してくれるだろう」という根拠のない甘えを抱いていた。何の覚悟もないまま彼らの声に耳を傾けようとしていた。傷痕を見せることにためらいを感じない人はいない。だからこそ私たちは、その言葉の一つ一つに真摯に向かい合わなければならない。私の中の甘えは粉々に打ち砕かれた。その後、半年かけて多くの戦争体験者たちの話を聞いた。

そうして迎えた十一月二十五日土曜日、本番当日。長い時間をかけて作り上げてきたものをついに発表することになり、言葉では表現できない感慨で胸がいっぱいになった。スケジュールは何事もなく予定どおり進んだ。終了のアナウンス。鳴り止まない拍手。帰路につく観客たち、それを送るゼミ生の顔。その満足した、そして誇らしげな顔を見て、ようやく終わったのだと実感した。

体験者の傷痕深く　甘えの気持吹き飛ぶ

受け継ぐ者の責任痛感

今回のイベントを通じ、強く感じたのは二つ。向き合った人たちに対する責任と、私たちが巻き込み、協力を得、支えてもらった人たちへの感謝である。こんな経験をこの先の私はできるのだろうか。これを糧に私はまた新たな一歩を踏みたい。それがわたしにとっての「COUNTZERO」である。

（社会学部3年次生　華山　哲幸）

高槻の風

将来への準備はいつから？

入学時から自己分析　職業ミスマッチ防ぐ

キャリアセンター・高槻

受験生が志望大学を選択する際、その理由として上位に挙げるものに「就職に有利だから」というのがある。しかし、いざ大学に入学すると就職のことは頭の隅に追いやられてしまう学生も多い。学生時代は勉強、クラブ・サークル活動等に勤しんだり、アルバイトや遊びに夢中になったり、入学当初であれば就職のことまで頭が回らないということもあるであろう。

ただし、三年次生になると、いやが上でも自分の進路を考えなければならなくなる。就職活動は自分の長所やどういう仕事が向いているのかといった自己分析から始まるが、そのときになって頭を抱える学生は少なくない。「学生時代に力を注いだこと」や「自己PR」が何も思い浮かばないのである。

それでも何とか苦労して就職活動を乗り切っていくのであるが、実は現在、日本では大卒の三割が入社三年以内に離職している。理由はさまざまであるが、自己分析不足、業界・企業研究不足が原因の「職業ミスマッチ」によることが多い。

そこで本学では従来の就職部を平成十六年四月から「キャリアセンター」と改称し、入学時からキャリアデザイン（将来設計）の支援や進路指導を行うこととなった。一年次生の早い段階から自らのキャリアデザインを考えることにより、「職業ミスマッチ」を防ぎ、よりよい人生を築いてほしいからである。さらに高槻キャンパスでは、「就職情報資料室」を平成十八年四月から「キャリアセンター高槻キャンパス分室」として再編し、総合情報学部の学生に対して早期からのキャリア形成と就職支援業務を分室内で行うこととなった。相談窓口と資料室が統合され、より充実したサービスを提供している。総合情報学部入学後は積極的にキャリアデザインに関する各種セミナーに参加するとともに、ぜひ分室にも気軽に足を運んでほしい。

学生時代にしかできないことは多い。将来に向けて、夢と目標を掲げて充実した学生生活を送ってほしい。

（キャリアセンター）

マロニエ提供ファッションショー

さっそう、学生モデル42人

学生モデルが観衆を魅了

文学部は、昨年十二月二十日、マロニエファッションデザイン専門学校（大阪市北区）による寄附講座「マロニエ提供ファッション学」で、ファッションショーを開催した。専門学校卒業展のためにデザインされた衣装をまとい、学生四十二人がファッションモデルとして颯爽とcatwalk（花道）を歩く姿は、二百五十人以上集まった観衆を魅了した。

本講義は、専門学校およびアパレル業界の講師陣によるリレー形式で、「どうして人は服を着るのか」「流行はどのように決まるのか」「なぜブランドの商品は高価なのか」などファッションをめぐる身近な疑問から最先端のアパレルビジネスまで、「ファッション」を総合的に考察する。また日頃の着こなしに役立つパーソナルカラーや美しい姿勢について実演を交えながら解説する「センスアップ」講座も、受講学生から大好評を得た。「マロニエ提供ファッション学」は来年度も継続開講の予定である。

（文学部）

今宮戎の福娘代表　経済学部の付さん

「世界中に笑顔の架け橋」

一月九日から十一日、「えべっさん」の名で親しまれている今宮戎神社で開催された十日戎の福娘に、留学生五人を含む七人の本学学生が選ばれ、大勢の人びとに笑顔一杯で福笹を手渡した。

「三日間はあっと言う間で、貴重な経験を得ることができた」と語る福娘代表の付文超（ふ・ぶんちょう）さん（経三）＝写真。

「世界中の架け橋となり、海外の方も参拝してもらえるよう努めたい」という代表選考の際に語った自己PRにも協力してもらい、作り上げた文章。

「人を応援する気持ちを忘れずに、世界中を歩き回りたい」と今後の抱負を語った。

飛躍

○**アイススケート部**

昨年十二月二十七、二十八の両日、名古屋市レインボーアイスアリーナで行われたフィギュアスケート全日本選手権で、高橋大輔さん（文三）が二連覇を飾り、織田信成さん（文二）が準優勝した。この結果、二人は三月十九日から行われるフィギュアスケート世界選手権の出場権を獲得し、活躍が期待されている。

○**速記部**

昨年十二月十日に国立すめ

リンピック記念青少年総合センターで開催された第九十二回全日本大学速記競技大会において、速記部が団体で総合優勝し、三十八連覇を達成した。また、個人戦においてもA級で岩上裕子さん（法三）が、B級で岩山静恵さん（法三）がともに一位という好成績を収めた。

受賞

○**吹田市・吹田商工会議所**

◆ビバ！ベンチャー吹田二〇〇六　ベスト・プレゼン賞

商学部三年次生　松井　孝（平成十八年十二月八日）

○**キャンパスベンチャーグランプリ大阪実行委員会**

◆第八回キャンパスベンチャーグランプリ大阪

ニュービジネス部門　佳作

工学部機械システム工学科四年次生　西川　明良（平成十九年一月二十五日）

○**独立行政法人日本学生支援機構**

◆平成十八年度優秀学生顕彰事業　文化・芸術　優秀賞

文学部四年次生　一ノ宮　渉（平成十八年十二月十六日）

◆平成十八年度優秀学生顕彰事業　スポーツ活動　大賞

文学部三年次生　高橋　大輔（平成十八年十二月十六日）

◆課外活動行事予定

2月1日～3月19日

◆**第1部　軽音楽部**
フレッシュマンライブ
2／13（火）・14（水）
千里山キャンパス　KUシンフォニーホール

◆**書道部**
第84回書展
2／16（金）～18（日）
吹田メイシアター

◆**囲碁部**
関西学生囲碁カーニバル
2／18（日）
アルプス江坂囲碁センター

◆**千里山法律学会**
新島襄記念法律討論会
3／3（土）
同志社大学

◆**演劇研究部「学園座」**
学園座2007年春公演
3月上旬
会場未定

関大通信 第341号
平成19年（2007年）２月１日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は３月20日発行の予定です

関大 おすすめスポット

千里山キャンパスは、阪急電車「梅田」駅から電車で約20分。最寄りの「関大前」駅からにぎやかな通りを５分ほど歩けば、広大なキャンパスが目の前に広がる。総面積35万㎡の敷地に、2007年度から新たに４学部が増設されるこのキャンパスでは、充実した学生生活を送るためのさまざまな施設が完備されている。

また、大阪と京都の中間に位置する高槻キャンパスは、甲子園球場の約12倍、45万㎡もの広大なキャンパスである。

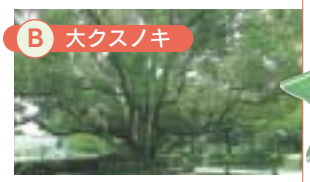
今回は、両キャンパス内を歩く学生のみなさんに声をかけ、毎日の生活の中から、身近なおすすめスポットを紹介してもらった。

千里山キャンパス

A 法文坂

毎日少し息を弾ませて上がるこの坂も、桜の季節だけはゆっくりと味わって歩きたくなるほど、美しい桜の花道になります。

B 大クスノキ



夏のよく晴れた日に、大クスノキの下から空を見上げると、葉の間から日の光がこぼれて、すごく爽やかな気持ちになります。

C 悠久の庭

昼間は友だちと芝生の上で話をしたり、スタンドやベンチに腰を下ろして食事をとったりしています。夜になるとイルミネーションが点灯され、昼も夜も多くの学生が集まる場所です。学園祭ではここにステージが設置され、大いに盛り上がりました。

D 図書館横の並木道と尚文館前の芝生

図書館横の並木道を抜け、尚文館前の滝を見ながら、尚文館前の芝生でくつろぐコースがおすすめです。都心に近い大学とは思えないほど緑が多くて、落ち着きます。

E 第２学舎付近

晴れた日はよくここで友だちとお昼ご飯を食べます。テーブルを囲んで、わいわいと楽しく食べるランチは格別に美味しく感じます。また、お昼休みにここに座っていると、たくさんの学生が行き交い、大学の活気を感じます。

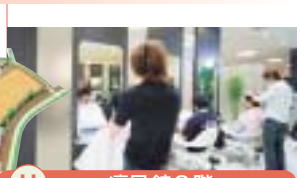
F 国際交流センターの交流室

ここでは英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、タイ語をそれぞれ母国語とする留学生との外国語会話交流会が行われています。私も何回か参加するうちに、留学生と気軽に話せるようになり、親しくなりました。留学に興味がある学生にとっては、語学スキルを上達させるためだけでなく、留学に関する情報交換の場にもなっています。

※開室時間および時間割は、国際交流センターに確認のこと。

G 凜風館１階学生ラウンジ

寒い日の待ち合わせはここと決めています。大スクリーンや広いラウンジを利用して行われている催し物を見て過ごしたり、ＬＡＮが利用できるので、自分のパソコンを繋いでインターネットをしながら待っていると、時間があっという間に過ぎます。その後は友だちと２階のダイニングフロアに移動して食事をすることが多いです。



H 凜風館３階

先日初めてカットハウスを利用しました。街にある普通の美容室より料金がかなり安いにもかかわらず、早くきれいにカットしてもらえるので助かります。授業の合間など、髪型が気になったときにすぐカットしてもらえてとても便利だと思います。

I 凜風館屋上

私は凜風館の屋上が気に入っています。南を向くと梅田まで一望でき、北を向くと広いキャンパス内を上から眺めることができます。ここから見える正門からのメインロードは、春には桜が、秋にはイチョウが季節の彩りを添えて、本当に綺麗です。雪が降ったら、きっと雪化粧したキャンパスもすごくきれいだろうなと思います。

高槻キャンパス

J 関西大学アイスアリーナ

大学に通年型のアイススケートリンクができたことにも驚きましたが、あのｑ 橋大輔選手や織田信成選手がここで練習をして世界の舞台で活躍していると思うと、同じ関大生として、誇りの持てる場所です。

K 高槻キャンパス馬場

馬術部の練習時間を狙って、馬が走る美しい姿をよく見にきています。キャンパス内で馬が見られるなんて、最初はすごく驚きました。

L 高槻キャンパス広場

キャンパスの中心に位置するこの場所は、何だか「ホッ」と一息つける場所です。温かい日にはベンチに腰掛けて、日向ぼっこをしています。また、夜は夜景が美しいことで有名です。

▶編集後記◀

本号では、私たちが日常の生活のなかで思い浮かべる素朴な疑問に、関西大学の各分野の専門的な研究者が答えるという特集を組んでみた。はじめての試みであるが、テレビや一般向きの解説書とはひと味違うものになったのではないだろうか。

本学においても、二月一日から一般入試が開始される。受験生のみなさんでこの号を読まれる人も多いだろう。今回取り上げた疑問に興味をもち、それに自分も答えられるようになりたいと思った人は、ぜひ大学に入学してから、関連する講義科目を受講して、専門的に勉強してもらいたい。

私もそうだったが、大学の教員の多くも実はこうした素朴な疑問を出発点に研究者への道を歩きはじめたのだと思う。

（高増　明）

今月の表紙

大西　正曹（おおにし・まさとも）社会学部教授

専門は産業社会学。著書に『よみがえる地財産業』。全国の中小企業経営者から「まいど教授」と親しまれる。各種中小企業支援委員会の座長を務める。